

所属	心理学研究科 現代心理学専攻 修士課程	修了年度	2020 年度
氏名	宮下 拓也	指導教員 (主査)	川端 美樹

論文題目	日本における同性パートナーの子育てに対する非当事者の態度
------	------------------------------

本文概要

【目的】近年日本でも同性パートナーが里親認定を受けるなど、同性パートナーによる子育てに対し徐々に関心が高まっている。しかし、日本において同性パートナーの子育てに対する態度についての研究は管見の限り行われていない。よって、本研究では日本における同性パートナーの子育てに対する非当事者の態度について検討した。また、日本において同性パートナーの子育てに対する態度を測定する尺度は存在しないため、Costa et al. (2014)により作成された尺度の日本語訳を行い(以下、日本語版 ATLGP)、日本語版尺度を作成した。

【方法】10代から60代の男女660名を分析対象とし、分析は男女別に行った。尺度の日本語訳はバックトランスレーションを経て訳文を確定した。なお、本研究では男性同性パートナーの子育てに対する態度(以下、ATGP)と女性同性パートナーの子育てに対する態度(以下、ATLP)を分けて検討した。

【結果】探索的因子分析の結果、日本語版 ATLGP は ATGP, ATLP 共に「否定的信念」因子と「現状の認識」因子の2因子に分かれた。いずれも α は.70以上であり、否定的信念因子と同性愛者に対する態度(ATLG-J6R)や伝統主義、平等的性役割態度と相関がみられ、信頼性・妥当性はある程度確保されていると判断した。次に、態度と関連のある要因について検討するため重回帰分析を行った結果、ATGP, ATLPの否定的信念と同性愛者に対する態度、伝統主義が正の関連を示し、平等的性役割態度が負の関連を示した。また、女性回答者においてのみ LGBTに関する知識得点と否定的信念に負の関連がみられた。メディア接触と否定的信念の関連を検討したところ、男性回答者において ATLP の否定的信念と「ゲイの登場する映画・テレビ番組」の視聴頻度が負の関連を示し、「レズビアンが登場する映画・テレビ番組」が正の関連を示した。反対に、女性回答者においては ATGP の否定的信念と「レズビアンが登場する映画・テレビ番組」が負の関連を示し、「ゲイの登場する映画・テレビ番組」が正の関連を示した。

【考察】日本語版 ATLGP の信頼性・妥当性は確認され、第1因子が「否定的信念」と命名されたことから本尺度によって態度を測定することは可能であると考えられる。しかし、第2因子は原版の「Perception of benefits of gay and lesbian parenting」と項目が異なったため、「現状の認識」と命名した。今後、本研究で採用した因子構造が適切であったかを含めさらに検討する必要がある。態度と関連のある要因について、否定的信念と同性愛者に対する態度との関連が示されたが、子育て以外にも同性愛者の権利に対する態度との関連も推察される。また、否定的信念と伝統主義が正の関連、平等的性役割態度が負の関連を示した。いずれも伝統的価値観の下では同性パートナーによる子育ては価値観からの逸脱とみなされることを示唆しており、同性パートナーの子育てに対し受容的な社会を構築するためには、多様性を認める平等志向的な価値観を広めることが大切であろう。知識量が女性回答者においてのみ有意差が示されたことは女性が他者志向的で共感性が高いことと関係があると推察され、知識を持つだけでなく他者に共感することも大切なのではないか。今後は知識量と共感性の交互作用を検討することが求められる。メディア接触と否定的信念の関連から、自らと異なる性の同性パートナーの子育てに対する態度形成にはメディアのような外的な情報が、自らと同じ性に対しては自己の経験など内的なものが活用されている可能性がある。そのうえで、自らと同じ性の同性愛者が登場するメディアは同情や共感を促し、自らと異なる性の同性愛者が登場するメディアは批判的な思考を喚起させる可能性が示唆された。